

事業成果報告書

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)
特定非営利活動法人 共生社会をつくるセクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク(共生ネット) (代表者名: 原 美奈子)
2. 研究または活動のテーマ(課題名)
「セクシュアル・マイノリティのための NPO/NGO と地域行政との協働を考える」国際シンポジウムの開催
3. 助成額
470,000 円
4. 実施期間
2014 年 7 月から 2015 年 5 月まで
5. 実施状況
<p><運営に関する事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ●2014 年 7 月 14 日 シンポジウム運営委員会第 1 回ミーティング (本事業のスケジュール、実施方法、役割分担の検討) ●2014 年 9 月 基調講演者・パネリストへ講演依頼 ●2014 年 10 月 会場の予約 ●2015 年 2 月 9 日 運営委員会第 2 回ミーティング (チラシ作成など広報の手順を確認) ●2015 年 2 月中旬～ 海外講演者対応 (航空券や宿泊の予約) ●2015 年 3 月～ 逐次通訳の依頼、講演者の資料の確認および翻訳、参加申し込み受付開始 ●2015 年 3 月 文京区との共催が決定 ●2015 年 4 月 当日配布資料の印刷 ●2015 年 4 月 12 日 運営委員会第 3 回ミーティング (シンポジウム進行打ち合わせ) ●2015 年 4 月 30 日 シンポジウム当日 ●2015 年 5 月 10 日 運営委員会第 4 回ミーティング (振り返り、報告書の作成など) <p><シンポジウムの概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ●日時: 2015 年 4 月 30 日 (木) 13:45～16:30 ●場所: 文京シビックセンター小ホール (東京都文京区春日 1-16-21) ●趣旨 (チラシリード文): LGBT が地域づくりに貢献する時代へ——。誰もが自分らしくイキイキと暮らせる地域には、多様な価値観を認め合う姿勢が欠かせません。地域のさまざまな課題に LGBT 団体、自治体、住民がともに取り組んでいく時代が到来しています。このシンポジウムでは、「性の多様性」の先進地である米国・サンフランシスコの足跡に学び、日本の LGBT コミュニティが培ってきた

ノウハウを共有します。「このまちに住みたい！」と思える地域づくりを一緒に考えましょう。

●スケジュール

13:30～ 開場

13:45～ 開始

14:50～ 趣旨説明（原ミナ汰・共生ネット）

14:00～ 基調講演（チェラン・リー・カラハン・GLBT 歴史協会理事）

14:45～ 発題 1（エディ・レインボープライド愛媛代表）

15:05～ 発題 2（鈴木秀洋・文京区男女協働・子ども家庭支援センター担当課長）

15:25～ 休憩

15:35～ パネルディスカッション（チェラン・リー・カラハン／エディ／鈴木秀洋／原ミナ汰）

16:30 終了

（18:30 よりパネリストと参加者の意見交換・交流会を実施）

6. 事業成果と自己評価

シンポジウムの準備や当日の進行は、おおむね順調に進めることができた。

共生ネットの所在地である文京区で実施できたこと、直前で文京区との共催が決まったことで、地域との連携が強化された。共生ネットの地域におけるプレゼンスの強化は、支援の拡大や質の向上につながる大きな成果であった。また、地域に開かれたイベントだと印象づけることができたため、いわゆる当事者も当事者以外も、安心して参加できたとの声が寄せられた。

サンフランシスコや文京区、松山市での取り組みに触れ、「地域で取り組むということがどういうことかわからなかったが何となくわかった」「行政の動きが励みになった」「民間サイドと行政それぞれのアプローチ内容や手順が比較できて良かった」「連携の重要性を再認識した」「DV や障がいの問題にも関係していることが理解できた」など参加者から好意的な評価を受けた一方、「パネルディスカッションでは各スピーカーと参加者質問を有機的に展開することができていなかった」「日本の NPO の財源確保の方法の話が具体的に出なかった」「通訳対応が不十分」などの評価もあった（アンケートより）。

レインボーウィーク（2015 年 4 月 25 日～5 月 6 日 <http://tokyorainbowpride.com/rainbow-week/>）に合わせて実施し、共生ネットの活動の PR を目指したが、会場（文京シビックセンター）の抽選にはずれたため平日の昼間に開催せざるを得ず、「参加のハードルが高かった」との声が寄せられた。にもかかわらず、約 100 名の参加があったこと、NHK 総合ニュース番組『シブ 5 時』でシンポジウムの様子が報道されたことは収穫であった。

シンポジウムのあとは、スピーカーと参加者との意見交換・交流会を開催し、スウェーデン大使館の後援を受けることができた。シンポジウムで消化しきれなかった議論や情報共有を、率直にすることができた。

今後はシンポジウムの報告をまとめ、ウェブサイトで公表するなど、その成果が見えるように努力する必要がある。

事業成果報告書の記入要領

※ 各記入欄の大きさは適宜調整してください。各記入欄とも字数制限はありませんが、全体が1～2頁に収まるように記入してください。

1. 個人または団体名を書いてください。団体の場合は、申請時の代表者名もご記入ください。
2. 応募時の研究または活動のテーマ（課題名）を書いてください。
3. 助成額を記入してください。
4. 貴事業の開始から終了までの期間を記入してください。
5. 事業の実施状況と達成状況を時系列的に記入してください。

例： ○年○月○日 第1回企画会議

本事業における役割分担の確認と実施方法を検討した。

6. 事業成果と自己評価について記述してください。

貴事業の成果をできるだけ具体的に書いてください。また、当初の目的がどのくらい達成されたかについて、できるだけ客観的に評価してください。

その評価の根拠となるエビデンス（メディアでの紹介など）や、成果となる刊行物についてもできるだけ具体的に記述してください。

※ 成果物の提出

成果物（イベントのパンフレット、刊行物、論文の抜き刷りなど）をそれぞれ1部、本事業成果報告書、収支報告書とともに提出してください。